

いしかわの遺跡

No.
47
2014.12.25

「加賀藩士の墓地」発掘調査



検出された墓地

金沢城下町遺跡（東兼六町5番地区）は、金沢城跡の南東に位置する鶴林寺および雲龍寺の旧墓地で、平成25年度から発掘調査を実施しています。

墓地廃絶後に堆積した土を除去すると、幕末～明治以降に作られた移転前の墓地の墓基礎・敷石や墓道などが出てきました。

さらに掘り下げると、江戸時代中頃の越前焼大甕、木棺等による土葬墓や、肥前焼甕等を蔵骨器とした火葬墓が見つかりました。加賀藩士の多様な埋葬状況を知ることができました。



納骨室内の肥前焼蔵骨器

公益財団法人 石川県埋蔵文化財センター

Ishikawa Archaeological Foundation

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1 TEL 076-229-4477 FAX 076-229-3731

E-mail ● mail@ishikawa-maibun.or.jp ホームページ ● http://www.ishikawa-maibun.or.jp/



あ い さ か い せ き あ い か み ひ が し い せ き し か ま ち
相坂遺跡、相神東シンカイ B 遺跡 (志賀町)



遺跡遠景 (東から増穂浦を望む)

二つの遺跡は、志賀町北西部旧富来町の酒見川と富来川に挟まれた区域にあり、ほ場整備に伴って発掘調査を行いました。相坂遺跡は低丘陵先端全体に広がっており、相神東シンカイB遺跡はその西側の少し低い所に位置しています。

相坂遺跡では、弥生時代の竪穴建物や奈良・平安時代の掘立柱建物などが見つかりました。特に、弥生時代の竪穴建物からは多くの土器とともに石鏃やその剥片が大量に出土しました。

相神東シンカイB遺跡では、奈良・平安時代や中世の掘立柱建物が見つかったほか、鉄滓も一定量出土しています。

この地の北方には高爪山が位置しており、山頂部の山岳信仰遺跡や山麓の製鉄遺跡が知られています。今回の調査で出土した鉄滓とこれら製鉄遺跡との関連が注目されます。また、相坂遺跡の竪穴建物から見つかった石鏃の原石と高爪山の登山口にもあたる大福寺地区で産出される「糸巻き石」と呼ばれる安山岩は肉眼観察では特徴が似ています。各時代を通して高爪山との関わりが注目される遺跡です。



弥生時代の竪穴建物 (相坂遺跡)



調査の様子 (相神東シンカイB遺跡)



遺跡から高爪山を望む

H 26
発掘
調査みなみしんほ いせき かなざわし
南新保 E 遺跡 (金沢市)

金沢市鞍月東地内の南新保 E 遺跡は、金沢港から南東へ約 4 km の低地に立地する集落遺跡です。過去の調査では、弥生時代の溝、奈良・平安時代～中世の区画溝と掘立柱建物などが見つっています。県立中央病院の整備に先立ち、昨年度に引き続き調査を行いました。

今回確認した主な遺構には平安時代の井戸 2 基があります。1 基は曲物を井戸枠としており、もう 1 基は、角材を方形に組み、薄板を外側に並べています。検出面の少し下から、廃棄時に壊された井戸枠や土器などが見つかりました。また、井戸底付近から須恵器、内面黒色土師器、斎串などが出土しました。そのほかの遺構では、平安時代と思われる柱穴列や近世以降の川跡なども見つかりました。遺物は、平安時代の土師器、須恵器を中心に、弥生土器も出土しました。

調査区の東側ほど遺構・遺物が少なくなる傾向が見られ、井戸や柱穴列はかなり上部が失われています。近代の耕地整理などで土地が削平された際に、浅い遺構が削られた可能性があります。



遺跡遠景 (北東から)



曲物を使った井戸 (SK8)



井戸上層の遺物出土状況 (SK12)



薄板と角材を組み合わせた井戸 (SK12)



新庄カキノキダ遺跡 (野々市市)

遺跡は、野々市市南東部にひろがる住宅地の中に位置し、標高は40m前後を測ります。発掘調査は、市域東側を南北に流れる高橋川の河川改修工事に先立つもので、川の左岸部が調査対象となりました。

調査の結果、調査区南半部では、半円形の窪みとその周囲で小穴多数を確認しました。窪みは直径約6m、深さ約20cm。河岸にかかる東側は削平されており全容は明らかにできませんでしたが、内部からは平安時代の土器のほか、少量の縄文時代晩期の土器と打製石斧が出土しており、縄文時代の竪穴建物と見られます。周囲に存在する小穴も、竪穴建物にともなう、あるいは重複して建てられた掘立柱建物柱穴の可能性があり、

調査区北半部では、溝1条と小穴多数を確認しました。溝は幅約2m、深さ約50cmで、平安時代中頃の須恵器、土師器が多数出土しました。小穴は平安時代の掘立柱建物柱穴の可能性があり、これに接して位置する溝は、建物周囲に配置された区画溝と見られます。



調査区域 (南から)



調査区南半部 (南から)



縄文時代 竪穴建物 (北から)



平安時代 区画溝 (東から)

古代体験

古代の須恵器づくり

須恵器は古墳時代中頃に朝鮮半島から伝わった古代を代表する焼物です。当センター近くの金沢市末町周辺でも、奈良・平安時代の須恵器窯跡が見つかっています。

学習講座での須恵器づくりは平成13年度より継続して実施し、製作及び窯焚き（古代体験ひろば復元古窯で実施）を行う中で、その製作や焼成技術の復元に取り組んでいます。21名の講座参加者は、出土品を参考に、食器として使われた杯や水などの液体用容器として使われた長頸瓶の製作を行いました。

作品は乾燥後、復元古窯に窯詰めを行いました。そして、薪を燃料に、75時間をかけて、1,200℃を超える高温で焼成し、最後に窯を閉塞しました。

冷却後、窯出しを行いました。作品は、窯内の還元作用により、出土品と同じような灰色をしています。

10月26日
須恵器製作



杯の製作



長頸瓶の製作



完成!

11月17日
窯詰め



慎重に作品を配置します

11月18日～21日
窯焚き



昼夜絶え間なく、薪を投入します



終盤、煙突から炎が噴き上がります

12月1日
窯出し



閉塞用のレンガ等を取り除くと、作品を初めて見ることができます。緊張の瞬間です



窯の中は炎がうずまいています

閉塞作業



高温のなか、焚口をレンガ等で閉じます



次に煙突を閉じて完了です



焼き上がった作品

古代体験まつり

平成 26 年 10 月 12 日（日）に晴天のもと、「伝統」をテーマに第 16 回古代体験まつりを開催し、約 1,340 人の参加がありました。

会場には 22 の体験コーナーを設けました。このなかには、テーマに関連した「古代の鏡づくり」・「実演木の器づくり」や、新規の体験として「土人形づくり」、久々に復活した「組みひもづくり」といったコーナーがあります。

屋外ステージでは地元の「友禅華太鼓」、「辰巳こんころ太鼓」の皆さんによる和太鼓演奏が行われ、力強い音が会場に鳴り響きました。演奏後は来場者も太鼓打ちに参加し、和やかに演奏者との交流を行いました。会場は親子や家族連れが多く、終始賑わいを見せました。来場者へのアンケートでは右表（7 頁）のような結果を得ました。

まいぶん OX クイズ



正解が発表されるたび、歓声が上がります



友禅華太鼓



辰巳こんころ太鼓

和太鼓演奏

古代ファッションの店



家族で、古代人に変身



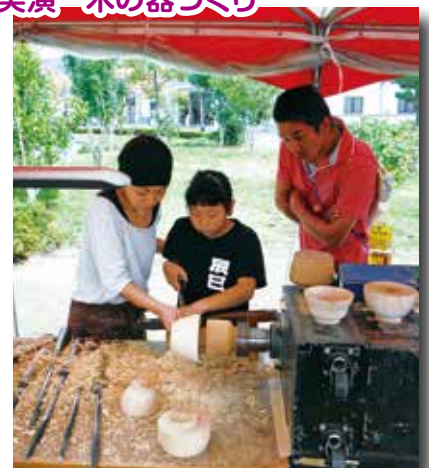
親子で飛び入り参加

土器・石器の重さ当てクイズ



本物の出土品に触れて、重さを予想

実演 木の器づくり



伝統の技「ロクロ挽き」にチャレンジ

第16回 古代体験まつり 体験コーナー

番号	コーナー名	内容 <input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> 試食
1	オープニングイベント	火おこし名人による採火式
2	ステージイベント 「和太鼓演奏」	「辰巳こんころ太鼓」・「友禅華太鼓」の共演
3	まいぶん〇×クイズ 「伝統のものづくり」	〇×式クイズ。敗者復活戦も行う 問題はテーマにちなんだもの
4	アクセサリ工房まがたま	滑石を素材に、砥石を使ってまが玉を製作
5	古代ファッションの店	古代の衣装を試着。記念写真を進呈
6	古代のかがみ工房	低融点金属による鏡の鑄造作業を見学 鏡の形を整え、研磨して仕上げ
7	古代組みひもづくり	輪にしたひもを、両手の指を使いながら組んでいく
8	実演 木の器づくり	「山中漆器」木地職人の実演と、ロクロ挽体験
9	土人形づくり	型に粘土をはめ込み、江戸時代の土人形を製作
10	まいぶん「ぬりえ」	銅鏡や銅鐸、鬼瓦などの塗り絵
11	つくってみよう ペーパークラフト	腕輪や土面、埴輪などの紙工作
12	縄文の釣り体験	鹿の角で作った釣針を使って、紙製の魚を釣る
13	火おこし名人	「もみぎり」による火おこし体験
14	土器・石器の 重さ当てクイズ	土器と石器に触れ、重さを予想して投票
15	感じてみよう古代サウンド	復元した琴や太鼓などを鳴らし、古代の音を体感
16	探してみよう土器パズル	土器などの破片をパズルのように組み合わせる
17	農園収穫体験	雑穀やサトイモを石包丁、掘り棒などで収穫する また、古代米の脱穀を行う
18	試食 雑穀米	雑穀米（アワやキビなどに赤米を混合）の試食
19	試食 縄文鍋	猪や鹿の肉などを食材とした鍋料理の試食
20	試食 古代米	古代米（赤米）の試食
21	縄文弓矢 狩人の森	丸木弓で、動物の的に向かって矢を射る
22	古代スタンプラリー	コーナー設置のスタンプを押して回る

オープニングイベント「採火式」



古代のかがみ工房



古代組みひもづくり



縄文の釣り体験



来場者の構成（来場者 1,340 人、アンケート回答 220 人）（%）

性別	男 (42)		女 (58)	
年齢	幼児(7)	小学生(34)	←中～大学生(3)	一般(56)
居住地	金沢市(64)		野々市市 ～加賀市(20)	河北郡・ かほく市(10)
情報源	新聞(10)、ホームページ(3)、センター『行事案内』(16) チラシ(37)、学校(26)、知人・その他(13) *複数回答			

来場者の主な意見・感想（アンケートより）

- ・昔の暮らしを楽しく学ぶことができた
- ・無料で体験できて嬉しい
- ・孫も大喜びで大変楽しかった
- ・親子でとても楽しめた
- ・珍しい鹿肉を食べられて嬉しい
- ・娘と古代衣装を着れてよかった
- ・サトイモ収穫の場所が狭く、もう少し間をあけてほしい
- ・スタンプラリーをクイズ形式にしてはどうか
- ・試食がもう少し多いと嬉しい
- ・待ち時間が少なくなると良い

火おこし名人



縄文弓矢 狩人の森 試食 古代米



農園収穫体験(サトイモ収穫)





古代体験学習講座「弥生の鏡・剣づくり」

本年11月30日に開催した古代体験学習講座「弥生の鏡・剣づくり」は、金属を溶かして鏡や剣を^{ちゆうぞう}鑄造する体験を通して、弥生時代に広まった金属文化の理解を深める講座で、保護者を含め28名の参加者が、出土品をモデルとした小型の鏡と剣の製作を楽しみました。

講座では、「金属使用の歴史」や「金属の鑄造法」を資料で学んでから、加熱して溶けた低融点の合金をシリコン製の鏡の鑄型^{いがた}へ流し込み、小型の銅鏡の鑄造をおこないました。次は鑄物砂を使った銅剣の鑄型製作で、型枠に鑄物砂を詰めて突き固めました①。鑄型が出来たら内面に離型剤を塗り、順番に鑄込みを進め②、合金が冷えて固まったら鑄型から取り出しました③。



午後は湯口を切断し④、鏡と剣の研磨作業を行いました。砥石でバリを取り、荒砥、中砥、仕上げの順で研ぎ⑤、最後は金属用の研磨剤で磨き、鏡面は光り輝くまでに仕上がりました⑥。



最後、弥生時代に普及した銅剣は、戦いの武器から祭器へ発展し、銅鏡と共に農耕や政治のまつりに使われたことを確認し講座を終えました。

平成27年2～3月の古代体験案内

3月15日(日)に予定している「弥生の^{ことう}琴づくり」は、木の板を加工して小型の弥生琴を製作します。対象は小学生3年生以上で、1月28日(水)から受付を開始します。また個人が随時体験できる「古代のはたおり体験」(2/21～3/8)、「いろ・色・まが玉づくり」(3/21～29)は期間限定です。多くの方々に“古代の知恵とわざ”にふれていただけるよう用意しております



「弥生の琴づくり」
(写真の琴よりも小型品を製作予定)



「古代のはたおり体験」



「いろ・色・まが玉づくり」